

大腸がん検診検体郵送の拡充

健康づくり推進課

郵送検診開始時の大腸がん検診の課題

○年代別受診率

	40-49	50-59	60-69	70-79	80歳以上
受診者数	1,583	2,006	7,618	5,559	1,340
割合	8.7%	11.1%	42.1%	30.7%	7.4%

○性別別受診率

	男	女
受診者数	6,432	11,674
割合	35.5%	64.5%

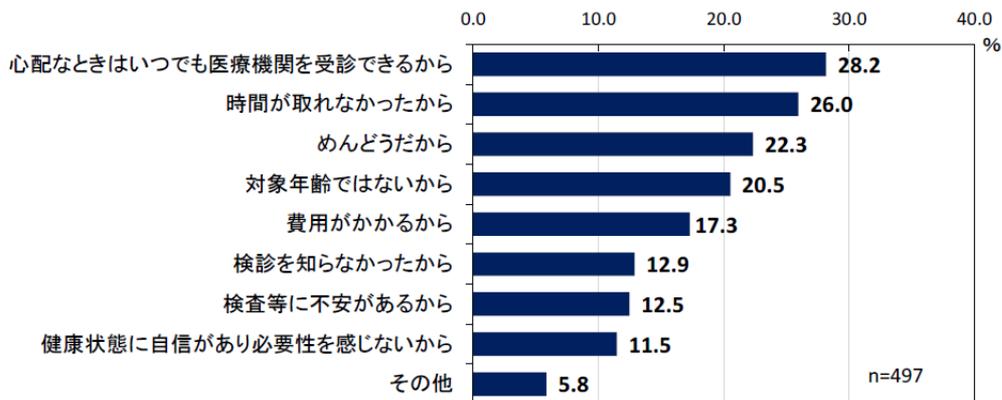


カテゴリー別に分けてみると、受診が多いのは60歳以上の女性が多い。

市民アンケート調査におけるがん検診を受診しない理由

■ 受診しない理由 -18歳以上-

受診しない理由は、「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」が28.2%、「時間が取れなかったから」が26.0%、「めんどうだから」が22.3%、「対象年齢ではないから」が20.5%の順。



※複数回答

課題への対応（大腸がん検診受診率向上のために）

○受診率の低い若い世代などの取り込み

・現在は、60歳以上の方が巡回検診や旧合併町などで行っている集団検診などで受診していることが比較的多い

○受診環境の整備

・市民アンケートによるとがん検診を受診しない理由として、時間が取れない、面倒という意見が上位を占めている。

・大腸がん検診に限っていえば、便秘、生理などで集団検診時に提出できないこともあるのでは・・・



個別検診、集団検診に加え、これまでの未受診層を開拓するため、郵送検診を受診方法として加えてみてはどうか

精度管理（郵送検体における精度管理）①

○がん予防重点教育及びがん検診実施のための指針

⇒大腸がん検診の検体郵送は「温度管理が困難で検査の精度が下がるため、原則として行なわない。」



平成23年3月 厚生労働省「がん検診推進事業Q&A」

Q 郵送での検査キットの回収は可能であるか。

A 検査精度に影響がない方法（冬期限定等）であれば実施可能であると考えます。



○平成28年における熊本市の平均気温（℃）

年間平均	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
18.0	6.1	7.2	11.4	17.2	21.4	23.7	28.2	29.5	25.9	21.9	13.9	9.2



熊本でも気温が比較的低い
11月から3月に実施

精度管理（郵送検体における精度管理）②

- 他都市の実施状況（すべて冬期における実施）
政令市（京都市などが実施）、県内他都市（菊池市、合志市などで実施）

○精度管理検討の研究例

1 便潜血検査の郵送対応可能性の検討 ※済生会川口総合病院 （2015年5月開催第64回日本医学検査学会）

【方法】7月から9月の夏季、気温の高い日を選び、ポスト放置時間が長くなるように2種類の濃度の擬似便361本を郵送し、Hb残存率を算出

【結果】擬似便の平均Hb残存率は92%以上、実検体で35%以上の正負誤差を生じた検体は28本(7.8%)、陰性転化7本(1.9%)、陽性転化2本(0.6%)

【考察】Hb残存率は対比する冷蔵保存した検体の測定結果から測定誤差範囲、陽性検体が陰性転化した7本のうち3本は測定範囲の陰性転化、2本はHb残存率が著しく低下していた。

【結語】実検体で顕著な陰性化が2本見られた。このような事例回避のためには気温35℃以下、週末投函を避けるなどの郵送条件が推奨される。

2 便潜血検体の郵送提出の取組み ※社会医療法人生長会 （2015年2月開催日本総合健診医学会第43回大会）

【方法】便潜血陽性の検体を集め、陰性の保存緩衝液で濃度調整3つの濃度の試料を作成、それぞれを37℃、50℃で保存2時間目から18日後までのHb濃度を測定

【結果】37℃で保存していたものは18日後までにカットオフ値(100ng/ml)以下にならなかった。50℃保存のものは保存2時間後からHb濃度の急激な低下が見られたが、低濃度試料でも3日目まではカットオフ値以下にならなかった。

【考察】郵送検体受入れをより安全にするためには、採便後2日以内に郵便局窓口に提出することが必要。

熊本市大腸がん検診における郵送検診試行事業実施の流れ

1 郵送検診電話申込み

広報誌等を確認し、電話にて検診機関に申込みを行います。



2 問診票及び便採取容器等の郵送

検診機関より問診票等を送付します。



3 問診票及び便採取容器等の返送

問診票の記入、採便終了後、返送用封筒にて返送をお願いします。



簡単なお手続き!!

住民税非課税の方、生活保護受給中の方は課税証明書、保護証明書を同封することで自己負担金が無料になります!

5 検診費用の払い込み

納付書で検診費用の払い込みをお願いします。



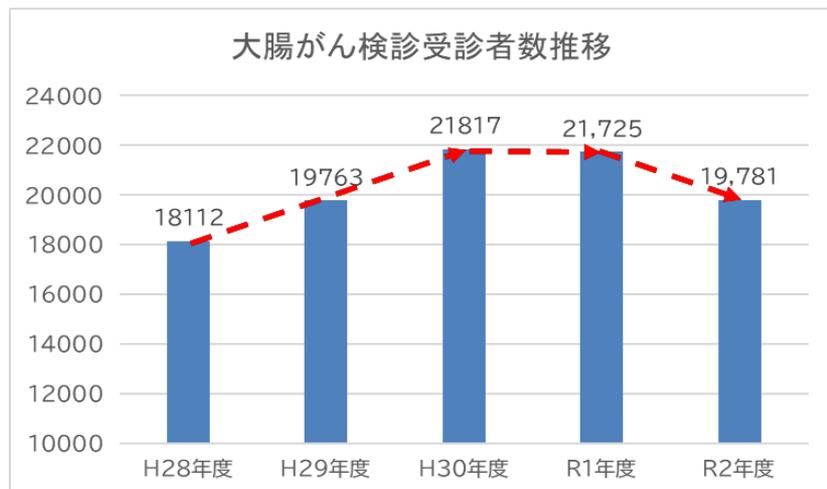
4 分析、結果通知・納付書送付

検診機関より検診結果と併せ納付書を送付します。

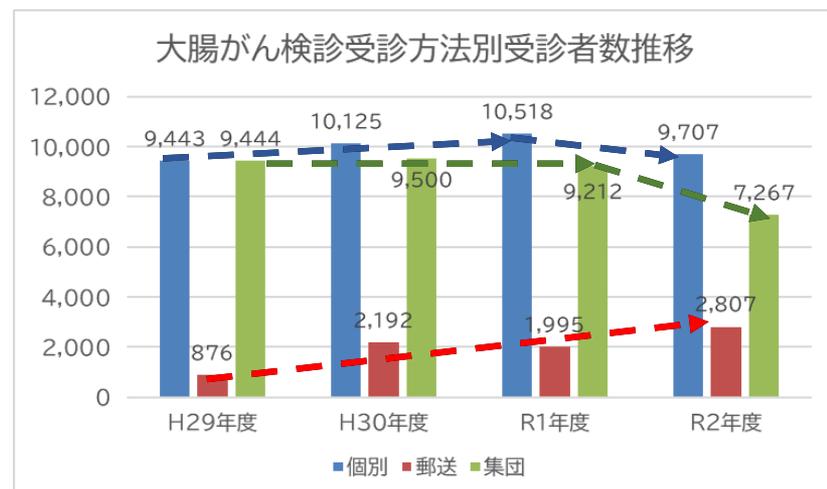


終了

大腸がん検診の受診者数推移



大腸がん検診の受診者数は熊本地震が発災した平成28年度から郵送検診の開始も影響し、平成30年度までは順調に伸びていたものの、令和2年度は新型コロナの影響もあり、減少に転じた。

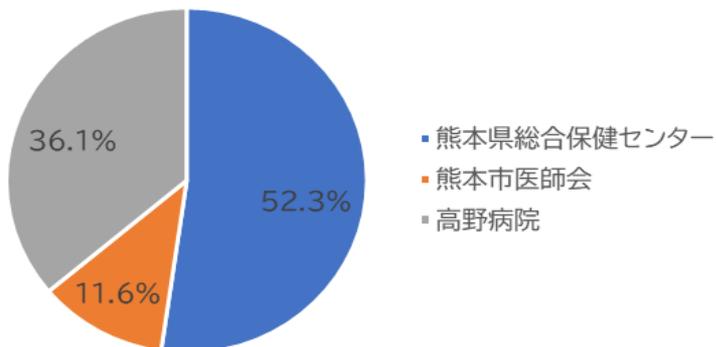


大腸がん検診の受診方法別の受診者数をみると、個別検診は微増傾向、集団健診は、横ばい傾向が続いていたが、令和2年度は新型コロナの影響もあり、減少に転じた。

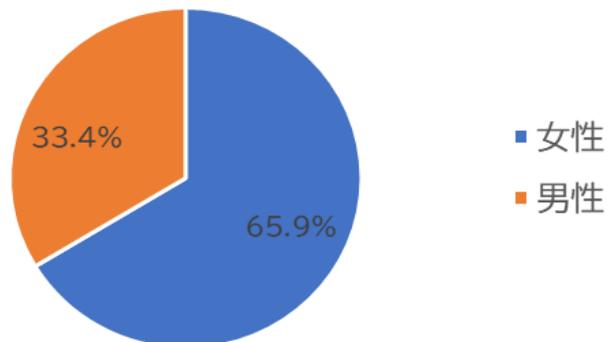
しかしながら、郵送検診は受診勧奨の効果もあり、コロナ禍においても受診者数が増加した。

令和2年度郵送検診利用者アンケート結果

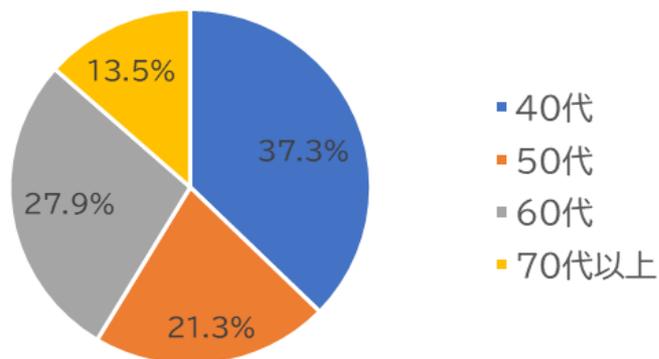
1 実施機関割合



2 性別割合

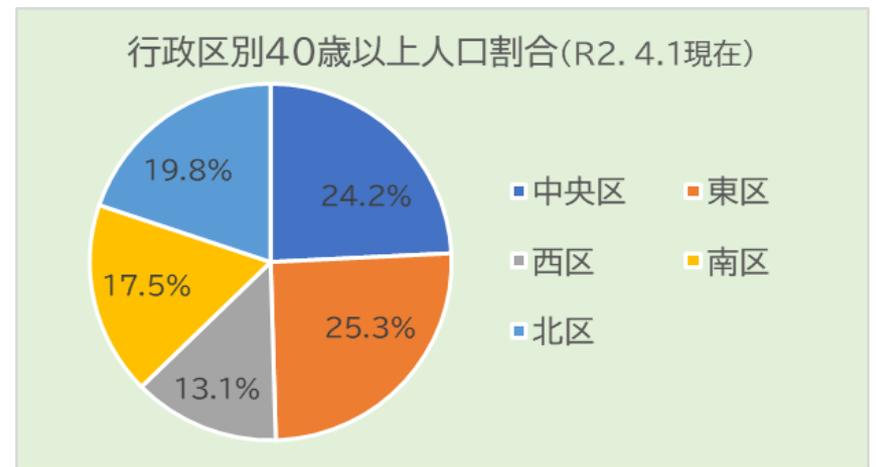
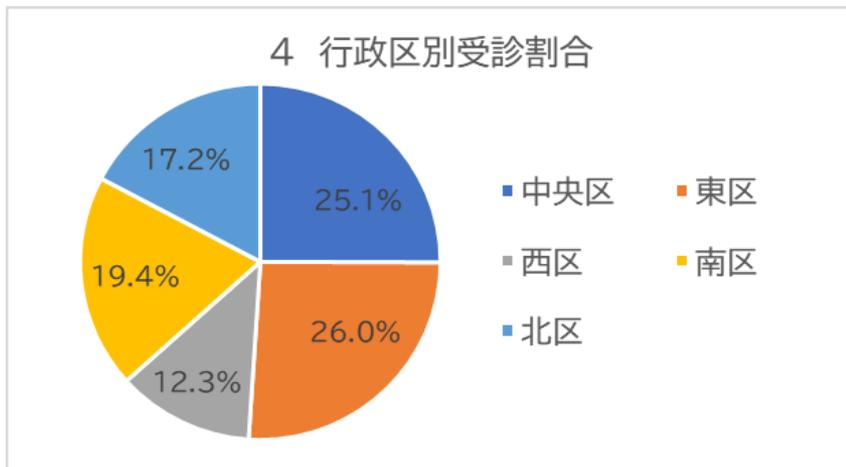


3 年代割合

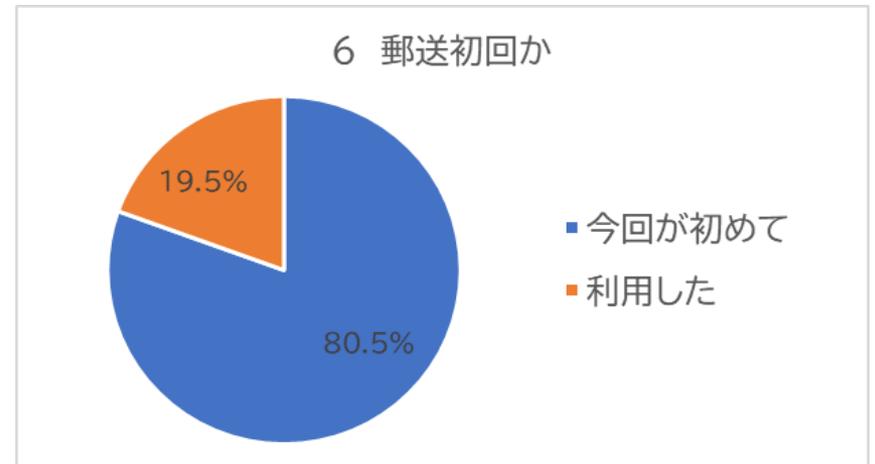
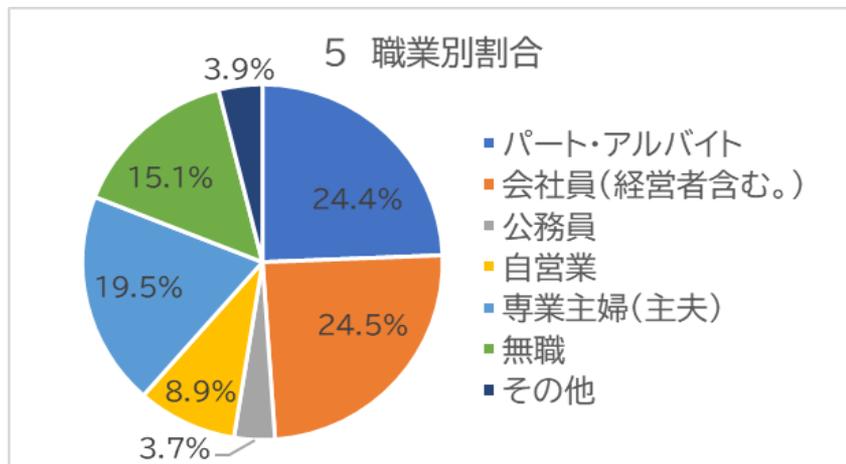


「1 実施機関割合」では本県総合保健センターが5割を超えており、次の高野病院が36%程度、市医師会は11.6%となっている。二次元バーコードから直接申し込みができた機関に集中したものと考えられる。

「2 性別割合」は女性が2/3を占めており健康意識が高い。また、「3 年齢割合」では40～50歳代が約6割を占めており、若年層の取り込みにも貢献しているといえる。



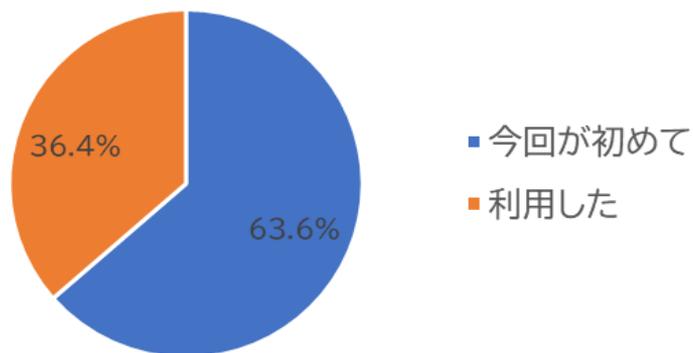
「4 行政区別受診割合」をみると概ね40歳以上の人口割合と近いものの、東区、南区では人口割合よりも多い受診者数割合であった。



「5 職業別割合」ではパート・アルバイト24.4%、会社員24.5%、専業主婦(主夫)19.5%と続いている。

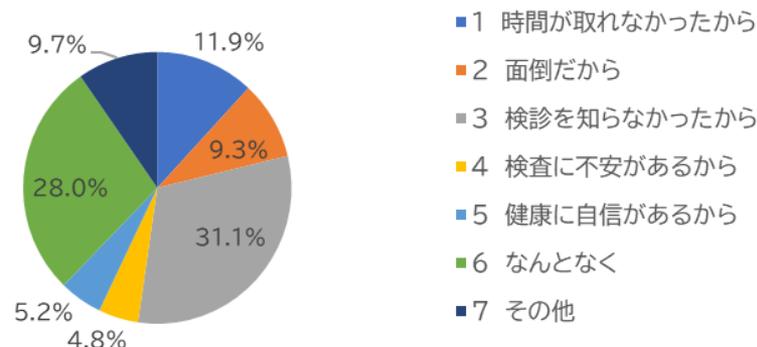
「6 郵送初回か」では約8割の受診者が郵送検診が初めてと答えている。

7 大腸がん検診受診の有無



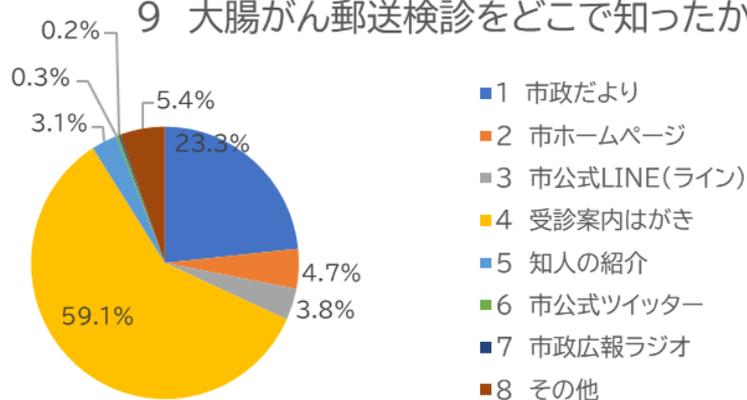
「7 大腸がん検診受診の有無」では、6割以上の受診者が大腸がん検診を初めて受診したと答えた。

8 これまで受診しなかった理由(初めて受診した方へ)



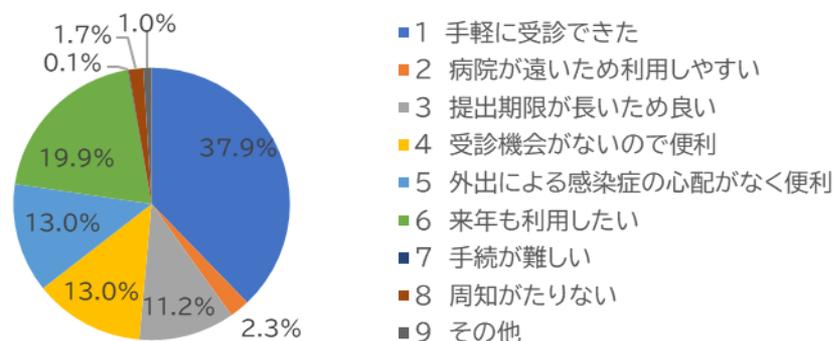
「8 これまで受診しなかった理由」では、「検診を知らなかった」が31.1%、「なんとなく」が28.0%、「時間が取れなかった」が11.9%と続いている。

9 大腸がん郵送検診をどこで知ったか



「9 大腸がん郵送検診をどこで知ったか」では、「受診案内はがき」が約6割、「市政だより」が23.3%とその二つで8割を超えている。

10 大腸がん郵送検診を利用した感想



「10 大腸がん郵送検診を利用した感想」では、「手軽に受診できた」37.9%、「来年も受診したい」19.9%、「受診機会がないので便利」13.0%、「感染の心配がなく便利」13.0%となっている。

令和3年度以降の大腸がん郵送検診(案)

大腸がん郵送検診は、自宅に居ながらにして受診可能なコロナ禍でも対面機会がなく、検診控えを行っておられる方の受け皿になりえることから、今年度は時期等を拡充して実施する。

郵送検診期間延長

実施期間

R2年度まで 11月～2月

R3年度以降 10月～3月

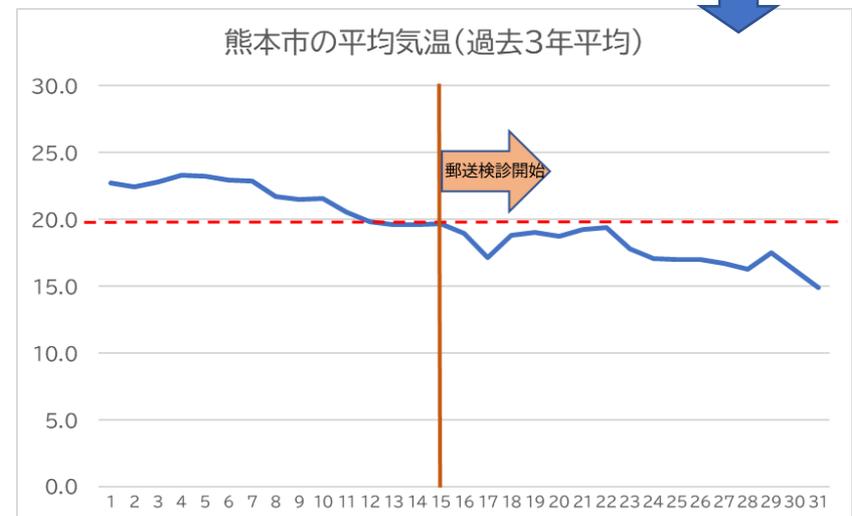
開始時期

令和3年10月15日

※開始時期は精度管理上、本市の過去3年間の
気温が20度を下回っている10月15日とする。

令和2年の平均気温

年間平均	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
17.6	8.8	8.9	12.2	14.1	21.3	24.9	25.8	29.7	24.7	19.3	14.5	6.9



郵送検診広報手段の拡充

R元年度まで 市政広報(広報誌,市HP,LINE,Twitter) + **回覧板**
(約2万8千枚)



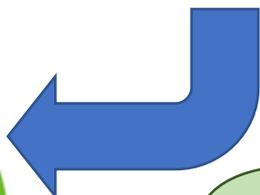
R2年度 市政広報(広報誌,市HP,LINE,Twitter) + **個別受診勧奨**
(節目年齢約28,000人)



R3年度以降 市政広報(広報誌,市HP,LINE,Twitter)

+ 個別受診勧奨(拡充)

(節目年齢約28,000人, 前年受診者へのキット送付2,000人)



前年受診者への受診キットを送付し受診者数の確保するとともに、節目年齢の対象者に個別勧奨を行うことで新規受診者増を図り、受診率向上を目指す！